



十勝大橋の今昔

大正

昭和

十勝川のはじめての橋

橋がかけられる以前の十勝川は帯広・音更間に渡船が設けられているだけでした。明治38年、帯広町（帯広市）と音更村（音更町）の有志が組合をつくり、現在の十勝大橋付近に長さ96mの「開成橋」を西2条通りに架設。渡るときにお金がかかる賃取橋でしたが、十勝川にかかったはじめての橋でした。

明治43年、耐用年数に達した開成橋を同じく西2条通りに架け替え、「河西橋」と改名。大正8年に洪水により流出し、架け替えられましたが、より頑丈な橋が求められるようになりました。

初代・十勝大橋

昭和16年に完成した初代・十勝大橋は、当時は新しい工法の鉄筋コンクリートゲルバー桁橋として、支間（橋脚と橋脚の間）は日本でもっとも長い41m、橋の面積では世界第2位でした。

昭和55年に定められた十勝川改修事業基本計画により、大雨による洪水を防ぐため、十勝大橋付近の川幅を広げる計画が昭和60年に実行されることになりました（木野引堤事業）。その結果、延長が不足するため十勝大橋も架け替えが必要となりました。

■旧十勝大橋

橋長	／	390.0m
橋格	／	1等橋
形式	／	鉄筋コンクリートゲルバー桁
完成年	／	昭和16年（1941年）
支間割	／	10.5m+41.0m×9連+10.5m
幅員	／	2.70m+18.00m+2.70m

新十勝大橋

新しい十勝大橋は、走行性、経済性、景観性に優れた三径間連続PC斜張橋で、長さ501m、幅32mのかけ橋です。橋の形はシンプルなデザインで、2つのハープ型のケーブルが張られた両側にはそれぞれ2車線の道路がつけられました。

十勝は地震が多く発生する地域で、また風向きが橋に直角にあたる西北西の風が多いことから、地震や風に対する安定性を考慮しながら橋の形、構造を検討しました。

■新十勝大橋

橋長	／	501.0m
橋格	／	1等橋
形式	／	3径間連続PC斜張橋
完成年	／	平成8年（1996年）
支間割	／	124.3m+251.0m+124.3m
幅員	／	4.50m+8.50m+6.00m+8.50+4.50m

明治38年

開成橋（木橋）完成



開成橋

明治43年

河西橋（木橋）へ架け替えられる

大正8年

洪水により流出。その後、架け替え



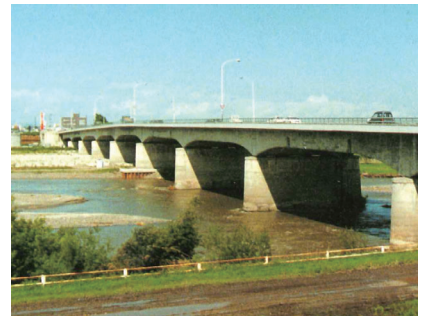
河西橋

昭和10年

河西橋（コンクリート橋）着工

昭和16年

十勝大橋（コンクリート橋、河西橋から改名）完成



旧十勝大橋

昭和60年

木野引堤事業
十勝大橋の架け替えが決まる

平成3年

十勝大橋（プレストレストコンクリート斜張橋、現十勝大橋）着工



新十勝大橋

平成8年

十勝大橋 完成

平成

令和

